平成２５年度研究成果報告書《平成25年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	１９	都道府県・指定都市名	山梨県
ふりがな **学校名** （生徒数）	やまなしけんりつこう ふ ひがしこうとうがっこう 山梨県立甲府東高等学校（８４１人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：山梨県甲府市酒折一丁目 17 番１号
電話番号：０５５－２３７－６９３１
学校のホームページの URL：http://www.higasih.kai.ed.jp

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：家庭
○研究のキーワード：思考力・判断力・表現力の育成
○研究成果のポイント：「与える」「覚える」から「考え」「判断する」授業展開の研究
確かな知識に基づいた表現力の育成

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

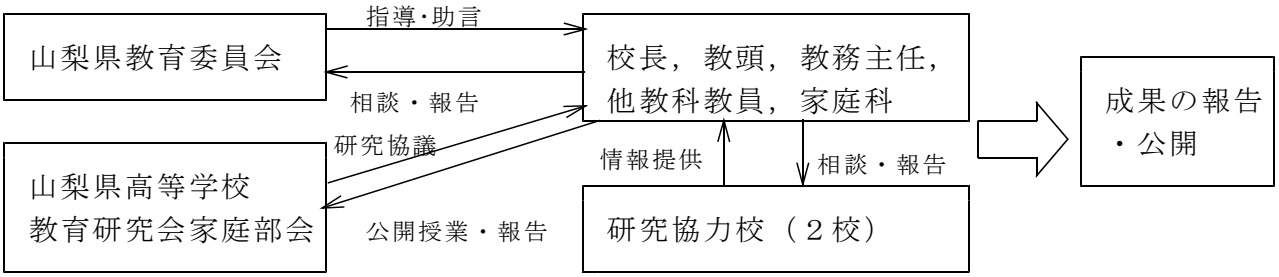
家庭生活や社会の課題を具体的に取り上げた，思考力・判断力・表現力を育む指導方法の研究

（２）研究主題設定の理由

生活体験の少ない生徒たちにとって，社会的な概念を抽象的に理解することはできても，生活の中での事象と結び付けて理解しにくいところがある。

そこで，生徒が自ら社会生活上の課題を実生活の中での事象と関連付け，自身のライフスタイルを設計することにより，思考力・判断力・表現力を高め，「生きる力」を育成することを目的とした指導方法について研究を進めたいと考えた。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	①生徒の実態把握と年間授業計画の見直し ②学校訪問における授業観察 ③教材，指導方法の研究開発 ④指導の実践及び成果の検証（協力校との研究協議会の実施） ⑤公開授業及び研究協議

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①　「与える」「覚える」から「考え」「判断する」授業展開の研究

〈具体的な手立て，取組の概要〉

・消費生活に不可欠な生活情報を，調査･実験等を通して検証し，意思決定につなげる授業展開を多く設定する。

・ホームプロジェクトの実践から，生活課題に対して主体的に取り組ませる。

〈取組による成果〉

・課題解決に必要な情報を自ら習得する等，受動的から能動的な行動へと移行させることによって，生徒の知識はより深化し，自ら考え主体的に判断し意思決定する力を身に付けさせることができた。

②　確かな知識に基づいた表現力の育成

〈具体的な手立て，取組の概要〉

・収集した情報を集約するために,まとめ方の要点を示したワークシートを作成し,論理的に思考できるように工夫した。

・多角的な視野で事例を検証するために,「肯定派」「否定派」に分かれプレゼンテーションを行い，多様な考えから自分の価値観と照らし合わせて，主体的な意思決定が行えるようにした。

・ＯＰＰ（One Page Portfolio Assessment）シートを活用し，学習前後の生徒の変容を見る手立てとした。

〈取組による成果〉

・「何故そう思うのか」という教師の問いかけに対して，これまでは曖昧だった部分があったが，指導方法を工夫することによって，確かな知識に基づいた論理的な表現力を向上させることができた。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①　成果

社会生活上の課題を取り上げ実践的な授業展開を試みた結果，生徒の興味･関心を引き出すとともに，生徒自身が熟考しながら答えを導き出し，その表現力は教師が与えた知識から導き出した表現よりもより深化したものとなった。また，その知識は他者の意見の解釈を容易にさせ，生活者としての行動をより具体化出来るようになった。

②　課題

生徒を主体とした授業展開をするためには，調査，検証，発表準備，発表，考察の時間を確保する等，授業の進め方を工夫する必要がある。また，様々な方向からのアプローチが考えられるため，教師の高度な知識や技能が要求される。

（２）研究成果の意義等

人が生きていくためにはあらゆる知識が必要である。しかし，この知識は実践的なものでなくてはならない。そのためには，自らが課題と向き合い追究することが必要であり，その過程で追究した思考の中で得られた知識は確固たるものとなり，まさに「生きる力」となり得る。

（３）指定期間終了後の取組

本校では「家庭基礎」（２単位）を履修しているが，内容の充実を図りつつ，効果的な指導方法を再考し，今後も本研究を深化させていきたい。また，県教育委員会や県高等学校教育研究会家庭部会主催の研修会等で研究成果の報告・協議を行い，その成果を広めるとともに，意見交換を行っていきたい。